

一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会 議事録

日 時：2018年11月15日（木）16：30～18：00

場 所：京王プラザホテル 南館 4F 錦

出 席：社員（評議員）約150名

委任状：50通

I. 開会, II. 理事長挨拶

開会に先立ち、名誉会員の臼井敏明先生（長崎大元教授 享年 88 歳：2018/6/25）の逝去を悼み黙祷がなされた。

当法人定款第 21 条により、矢富裕理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数 231 名のところ社員出席者数と委任状数を合わせて半数を越えるため（150 名）当会での決議は成立することが報告され、議事を進めた。

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（東條尚子 庶務理事）

2018 年度各種委員会活動について、各委員会のまとめが資料として用意され、報告された。

1) 学術推進化委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：吉田 博）

①平成 30 年度学術推進化プロジェクト課題の決定

- ・6 課題の応募があり、3 課題を委員会で選考した。

②平成 26・27 学術推進プロジェクト研究の報告義務違反とその対応

- ・採択された 4 課題のうち、2 課題で規定通りの報告がなされなかった。
- ・2 課題の研究代表者は研究終了後 6 ヶ月経過しても臨床病理に原著論文も総説論文も投稿しなかったため、委員長より総説原稿の執筆が依頼され、結果、2 課題の総説原稿が臨床病理に投稿された。
- ・2019 年より、他誌に投稿する場合であっても、研究終了 6 ヶ月以内に臨床病理に総説を投稿するよう規定を変更した。

③学術推進プロジェクト研究結果最終報告

第 65 回学術集会 1 日目（11 月 16 日、16 時 30 分～）・第 5 会場

④学術推進化委員会：11 月 15 日（木）14 時～

2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：村上正巳）

①編集委員が交代し、編集委員の業務の確認を行った。

②優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。

③ 国立国会図書館オンライン資料の寄贈を行うこととした。

④和文誌雑誌名の検討および電子版英文誌の検討を行った。

⑤ PubMed システム変更に伴い、改めて掲載を申請した。

⑥投稿規定の修正および COI 申告書とチェックリストを更新した。

⑦臨床検査専門医試験の問題と解答を掲載することとした。

3) 教育委員会（委員長：橋口照人、担当理事：山田俊幸）

- ①ワークライフバランス委員会、日本臨床検査専門医会との共催により「第2回医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナー」を開催した。
- ②第74回関東・甲信越支部例会において第4回RCPCを行った。
- ③第30回関東・甲信越支部総会前に同会場にて第5回RCPCを行った。
- ④第65回学術集集會にて下記を企画した。
 - ・RCPC
 - ・臨床検査医学 catch up セミナー
 - ・eラーニング
 - ・ワークショップ「臨床検査の教育&キャリアプランを考える」

4) 臨床検査点数委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）

- ①内保連第1回社員総会（2018/6/26）報告：平成30年度社会保険診療報酬改定の総括があり、日本臨床検査医学会の要望28項目に対し、10項目で要望が反映された（要望通り7項目、一部反映3項目）。
- ②診療報酬の矛盾点とAIに関する内保連アンケートへの対応（2018/9/7 締め切り）：今回改定での項目間点数齟齬と、AI利用の基盤となる臨床検査データの共通基盤を用いた場合の加算提案を行った。
- ③次期診療報酬改定に向けたアンケートと臨床検査振興協議会への次期提案リスト提出（2018/9/15 締め切り）：平成30年度改定への提案で要望が反映されなかった内容を含め、26項目の提案を提出した。

5) 学会賞委員会（委員長：大林光念、担当理事：松尾収二）

- ①平成30年8月6日(月)に学会事務局で開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（蔵野信氏）、検査・技術賞（菊地良介氏）、若手研究者奨励賞（松本竹久氏、西岡光昭氏）、優秀論文賞（船木俊孝氏、松浦辰也氏、森本徳仁氏）
- ②同学会賞選考委員会では、学会賞の応募規定の改訂に関する案もまとめ、理事会での審議を依頼した。

6) 標準化委員会（委員長：菱沼 昭、担当理事：古田 耕）

- ①TSH および FT4 の国際標準化について IFCC 甲状腺検査標準化委員会の論文が出たのを受けて、企業メンバーと今後について協議した。FT4は数値の変動が大きく IVD メーカーとしても対応が困難であることから、TSHを先に標準化することにした。
- ②4 団体（日本甲状腺学会、日本臨床化学会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査標準協議会）連名で厚生労働省に、TSHの標準化に関して、要望書を提出した。第2回目の厚生労働省との打ち合わせを8月に行ない、学会、厚労省、企業側で実施にむけて協議を進めている。

7) 精度管理委員会（委員長：菊池春人、担当理事：宮地勇人）

- ①2019年度のCAPサーベイ参加募集にあたり、プログラム、新規導入項目について検討した。
- ②CAPサーベイの現状分析と課題整理を行った。2016年度以降のサーベイで評価されない、または低評価の検査項目について、その原因と対策について検討した。
- ③CAPサーベイのアンケートの質問内容と回答方法について検討した。
- ④臨床検査室グローバルニュースは、委員会監修のもと年4回発刊を継続中。
- ⑤検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正を踏まえて、外部精度評価の課題整理と方向性について検討中。

8) EBLM 委員会（委員長：片岡浩巳、担当理事：大西宏明）

- ①5月と6月にかけて Web 会議システムを利用した委員会を開催し、今後の委員会の方向性や、次回の学術集会における教育セミナーの内容について検討した。
- ②第 65 回学術集集会において、委員会企画の教育セミナーとして、「医療ビッグデータの解析法」（11 月 16 日（金））を実施する。内容としては、臨床検査データを用いた大規模なデータ解析を行う場合の注意点やノウハウを中心に解説する計画とした。
 - ・ビッグデータの概念と臨床検査分野での活用に向けた展望（市原清志）
 - ・ビッグデータの分析ツールと使い方の実際（山下哲平）
 - ・医療ビッグデータ解析法データウェアハウス構築とデータ解析法（片岡浩巳）

9) 倫理委員会（委員長：横崎典哉、担当理事：古川泰司）

- ①本年度より委員長を横崎典哉、担当理事古川泰司とした新体制を発足した。第 65 回日本臨床検査医学会学術集會中の 11 月 17 日に第 1 回委員会を開催し、今後の活動計画を検討。
- ②第 65 回日本臨床検査医学会学術集會にて、委員会企画講演「2017 年に改訂した『臨床検査を終了した残余検体（既存試料）の業務、教育、研究のための使用』」を開催。

10) 利益相反委員会（委員長：通山 薫、担当理事：古川泰司）

- ①担当理事、委員長をはじめ、委員会メンバーの一部交替があった。
- ②COI 自己申告書各種様式は前年度改訂されそれぞれ運用されているが、実情に則り役員 COI 自己申告用様式の小修正をおこなった。その後も常任理事会から変更提案をいただいております、学術集會期間中の委員会にて審議予定。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：吉田 博、担当理事：東條尚子）

- ①第 1 回ガイドライン作成委員会（9 月 1 日）
 - ・臨床検査のガイドライン 2018 作成に向けて、執筆進捗状況と今後のスケジュールが確認された。（事前最終確認：2018 年 11 月 17 日（第 65 回学術集會会期中）、刊行予定：2018 年 12 月）
 - ・「日常初期診療における臨床検査の使い方」について議論し、成案を得た。
- ②第 2 回ガイドライン作成委員会：11 月 17 日（土）8 時～

12) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：谷直人）

- ①2018 年度は 1 回の委員会を開催した。JLAC10 の新規登録を、分析物コード 37 件、識別コード 12 件、測定法コード 8 件、結果識別（固有）コード 318 件、実施した。
- ②一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS）が厚生労働省から受託した「臨床検査マスター普及に向けた調査研究業務」に協力し、JLAC コードに関連するマスター仕様、マッピング支援ツール、運用管理体制等について検討を行った。報告書は 3 月に厚生労働省に納品された。

13) 広報委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：木村 聡）

- ①広報委員会はワークライフバランス委員会や日本臨床検査専門医会の広報委員会、臨床検査振興協議会の広報・編集委員会等と協働して活動している。
- ②昨年度より「レジデントノート」誌に「臨床検査専門医がコソコソ教える・・・検査の Tips!」を連載している。好評につき、来年度も連載継続となった。
- ③平成 30 年度こども霞が関見学デーに今年も日本臨床検査振興協議会を通じ協力した。
 - ・りんしょう犬さんを従来のファイルに加え、LINE のスタンプにする企画が進行中。

著作権を振興協議会で買い取る方向。

- ④第30回日本医学会総会 健康未来 EXP02019 にパネル展示を行う。臨床検査医の活動、社会的意義を広報すべく、ワークライフバランス委員会とも協議の上で内容を決定する予定。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：村上正巳、担当理事：長沢光章）

- ①臨床検査室医療評価委員会を実施した ISO 15189 認定に関するアンケート報告を本会ホームページへ掲載した。
- ②「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係省令の整備に関する省令案」に関する日本臨床検査医学会としてのパブコメに対する意見をまとめて厚労省へ届出し、省令とともに本会ホームページへ掲載した。

15) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）

- ①がん遺伝子パネル検査の品質・精度の確保に関する基本的考え方（第 1.0 版）を日本臨床検査振興協議会の活動に協力して作成。アップデートしたゲノム検査に関わる資料集とともに、遺伝子委員会 HP に掲載の上、関連団体などに周知するとともに諸課題について対応検討中。
- ②検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正を踏まえて、希少疾患・難病の診療に供する遺伝学的検査の取り扱いをはじめ遺伝子関連・染色体検査の精度の確保の諸課題について検討中。

16) 国際委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：村上正巳）

2018 年度国際学会奨励賞受賞候補者に笠松 哲光、中野 恵一、亀田 貴寛、鈴木 敦夫の 4 氏を推薦した。

17) 医療安全委員会（委員長：中谷 中、担当理事：吉田 博）

- ①日本医療安全調査機構臨時社員総会（10 月 3 日開催）：中谷委員長が出席し、医療事故調査制度の現況について報告を受けた。
- ②医療安全講習会：第 65 回学術集会 3 日目（11 月 16 日、13 時～）・第 3 会場
- ・病院病理部門における ISO 15189 取得の意義と課題
上田善彦 先生（獨協医科大学埼玉医療センター）
 - ・医療メディエーション～医療の安全と質向上に資する医療対話のカタチ
荒神裕之 先生（厚生中央病院、東京医科大学）
- ③医療安全委員会：11 月 18 日（日）8 時～
- ④医療安全全国共同行動会員連絡会議（名古屋、11 月 23 日開催）：中谷委員長が出席する予定である。

18) 会則改定委員会（委員長：東條尚子、担当理事：谷直人）

- ①評議員の再任に必要な単位の細則について、日本臨床検査医学会特別例会の出席を 10 点、筆頭者（共同演者）発表を 10 点（5 点）に改定する案を作成した。
- ②評議員の選出に関する細則について、候補者が満たすべき条件を改定する案を作成した。

19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：柴田綾子）

第 65 回日本臨床検査医学会学術集会において委員会でシンポジウムを開催することになった。チーム医療の求められる場面を検討し、今後の活動について委員会でさらに話し合っていく。

20) 学術集会企画委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：木村 聡）

- ① 2018 年・2019 年度の新委員が推薦され、2018 年 7 月 7 日開催の理事会で承認された。

- ② 2018年度の第1回委員会は、第65回学術集会中の11月16日（金）の午前8時より開催予定であり、第66回及び第67回の学術集会のプログラムなどを審議する予定である。
- ③学術集会のシリーズ企画として「各専門学会との連携：臨床系各専門学会からのゲストスピーカーを招いた意見交換」を行ってはどうかと提案されていたが、最初の試みとして、第65回の学術集会時の11月16日（金）に、「特別企画1：臨床検査に何を求めるか—各科スペシャリストからの提言—」と題し、日本血液学会から三谷絹子先生（獨協医科大学）をお招きし、「ゲノム診療時代の血液内科医が求めること」のテーマで対談が行われる。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- ①新専門医制度広報アドホック委員会をワークライフバランス委員会に統合した。
- ②臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで12件の問い合わせに回答した（2018年4月～10月31日現在）。（担当：千葉泰彦 委員）
- ③研修施設アンケート実施し、8月10日現在73施設中32施設から回答を得た（回答率43.8%、現在も受付中）。（担当：千葉泰彦 委員）
- ④臨床検査振興協議会による「2018年厚労省こども 霞ヶ関見学デー」（2018年8月1、2日）での広報活動に参加・協力した。（担当：五十嵐岳 委員）
- ⑤第2回ハンズオンセミナー（ワークライフバランス委員会、教育委員会 共催）を8月19日に東大病院で実施した。（担当：西川真子 委員）
- ⑥第65回学術集会でワークショップ「臨床検査の教育&キャリアプランを考える」（臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会 共催）を企画、実施。（担当：小倉加奈子 委員）
- ⑦「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」（日本医師会 女性医師支援センター）に出席。（尾崎敬 委員）
- ⑧第65回学術集会時に託児所アンケート調査を実施。

22) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：村上正巳）

1月1日、7月1日付での新規申請施設および再認定施設の研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

23) 受験・更新資格審査委員会（委員長：菊池春人）

- ①本年度の臨床検査専門医、管理医の受験資格について審査を行い、第1回臨床検査専門医・管理医審議会（審議会）に報告した。
- ・専門医新規受験希望者19名について全員を有資格と判定した。
 - ・管理医受験希望者39名について全員を有資格と判定した。
- ②2017年12月31日までの5年間に更新単位を満たしていたが、申請が遅れた臨床検査専門医更新申請者について2名について単位等を確認、2018/1/1付で更新資格ありと判定し、審議会に報告した。

24) 試験委員会（委員長：宮地勇人）

- ①日本専門医機構の整備指針に基づき、臨床検査専門医認定試験の客観性、透明性、公平性を確保するため、試験のあり方の検討、臨床検査専門医・管理医審議会での審議を踏まえ、試験の見直しを順次行っている。
- ②第35回試験（2018年度）について、出題基準・出題範囲の公示に基づき、筆記試験（記述問題、多肢選択問題）、実技試験について、試験委員会・実行委員会の合同会議による試験問題のブラッシュアップを行っ

た。試験準備側の負担を減らしつつ、より客観的で合理的な実技出題の方法として、実技動画試験を順次拡大。

③試験実施内容の評価と可否の最終判定を行った。

第35回臨床検査専門医認定試験実施

試験実行委員長：古川泰司（帝京大学）

開催場所：帝京大学医学部

実施日：2017年8月4日、5日

④検体検査の精度の確保に係る医療法等の一部改正の施行を控え、染色体・遺伝子関連検査の位置付けを検討した。

⑤管理医受験者へのアピールのため、専門医試験と管理医試験を同日開催とした。

25) 臨床検査専門医制度検討委員会（委員長：木村 聡）

2018年10月16日に第1回委員会を開催。以下を提案した。

①旧来の学会専門医の名称と運用

- ・「学会認定臨床検査専門医（以下学会専門医）」とする
- ・2020年までに合格しなかった学会専門医受験者は、機構の試験を受験し、学会規準で可否を判定。この措置を2025年まで継続。
- ・更新を機構専門医か学会専門医にするかの選択は2021年度まで可能。

②学会内にサブスペシャリティ専門医を新設する件

- ・「凝固系」「血液像」など特定領域に的を絞った「短期集中特訓講座」を開催し、修了試験や受講証明証発行を行うことで、個別の診断能力向上を図った方が効果的。
- ・特訓講座は専門医試験で得点が不足している受験生にも有用であり、一定の成績を得れば専門医再受験時にアドバンテージが得られるシステムも有効。

③検査部長と専門医制度の関わり、とりわけ中小病院における専門医のあるべき位置付けについて

- ・臨床検査部において、卒後ほとんど専門教育を受けたことが無い医師が検査部長など指導的地位につき、主体的な検査室運営に関わって来なかったことが、臨床検査専門医の社会的認知度が低い原因の一つと考えられる。
- ・「検査部長とは何をすべきか」といった、臨床検査専門医の「資質」について、学会から国民に声明を出す時期である。
- ・とくに精度管理の重要性と、臨床検査専門医の関与がなぜ必要なのか国民にアピールが重要である。

④臨床検査専門医の適正数について

- ・当面は加算 IV 施設 613 箇所検査医配置が目標となる
- ・プログラム制・カリキュラム制を合わせ、毎年50名の専門医輩出を当面の目標とする。
- ・ハンズオンセミナーのような学生・研修医イベントが有効。学会主導で東京だけでなく関西等でも開催し、費用と人材を投入するよう提案する。

26) 2018・2019年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：古川泰司）

①第35回臨床検査専門医認定試験実施

試験実行委員長：古川泰司（帝京大学）開催場所：帝京大学医学部板橋キャンパス

実施日：筆記試験 2018年8月4日 実技試験 2018年8月5日

試験は、予定通り二日間、帝京大学板橋キャンパスにて行われ、受験者合計23名（初回受験19名、全科目再受験3名、一科目再受験1名）であった。

②第35回試験（2018年度）の出題基準・出題範囲の公示内容を検討した。

③第4回理事会にて、会計報告を行った。

27) 2018・2019年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：東田修二）

第10回臨床検査管理医講習会・認定試験を2018年8月5日に帝京大学で実施した。今回は初めて検査専門医試験と同日に行った。39名が受講・受験し、9月1日の第2回臨床検査専門医・管理医審議会において全員の合格が承認された。

2. 第66回学術集会報告（岡山2019/11/21(木)～11/24(日)）（矢富裕 理事長、通山薫 会長）

2019年11月21日（木）～11月24日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山市）で、テーマを「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として、通山薫会長（川崎医大）のもと開催されることが報告され、通山会長から挨拶、第66回学術集会の紹介があった。

3. 第67回日本臨床検査医学会学術集会報告（岩手2020/11/19（木）～11/22（日））（矢富裕 理事長、諏訪部章 会長）

2020年11月19日（木）～11月22日（日）に、アイーナ（盛岡市）で、テーマを「人工知能（AI）時代の臨床検査」として、諏訪部章会長（岩手医大）のもと開催されることが報告され、諏訪部章会長から挨拶、第67回学術集会の紹介があった。

4. 第11回日本臨床検査医学会特別例会報告（名古屋2019/4/13(土)）（矢富裕 理事長、前川真人 特別例会長）

2019年4月13日（土）に、名古屋国際センター（名古屋市）で、テーマを「臨床検査医学、次のディメンジョンの幕開け」として、前川真人特別例会長（浜松医大）のもと開催されることが報告され、前川真人特別例会長から挨拶、第11回特別例会の紹介があった。

5. 評議員の選出に関する細則の一部改定について（東條尚子 庶務理事）

評議員選出の資格要件の一つの過去5年間の学術集会への参加と発表に関して、過去5年間に3回以上参加するのは変わらないが、一般演題発表について、発表年の縛りを廃止して1度の学術集会において3演題の発表でも認めると改定したことが報告された。

6. 日本臨床検査医学会認定臨床専門医更新規定の一部改定について（山田俊幸 専門医担当理事）

日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医更新規定の一部改定した以下2事項について報告された。

1) 「リスクマネージメントに関する講習会」について

日本臨床検査医学会医療安全委員会が主催するリスクマネージメントに関する講習会と日本専門医機構共通講習（医療安全）は、同内容の講習であるため、日本専門医機構共通講習（医療安全）2単位の取得で、学会専門医更新の必須単位（5単位）と認定することとなった。

2) 「その他の関連学会および日本医師会生涯教育研修会」について

現在「日本医師会生涯教育研修会」は存在しないため、これを削除し、「その他の関連学会が主催する講演会、教育セミナー」と改定した。

7. 役員などのCOI自己申告書の改定について（東條尚子 庶務理事、矢富裕 理事長）

2017年度第4回理事会（2017/12/23）に、COIに関する細則、申告書を改定していたが、申告する期間が分かり難かったため、また、申告する内容が曖昧な部分、申告する対象も適切でない部分があると意見があり改定、修正したこと、そして、未提出者への対応、発表時の開示方法で特許、講演料に関して今後検討することが報告された。なお、演題発表時は、一時静止してきちんと開示することを徹底したいと伝えられた。

8. 「基準範囲」名称検討WGについて（矢富裕 理事長）

基準範囲に関する用語について学会が指針を示すことを目指し、そのため基準範囲名称検討 WG（委員長：前川真人先生、委員：桑克彦先生、東條尚子先生、古田耕先生、山田俊幸先生）を設置したことが報告された。

9. 専門医制度関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事）

新専門医制度に関して、以下の2事項について報告された。

1) 2018年スタートプログラム制・カリキュラム制専攻医について

2018年度日本専門医機構臨床検査領域研修プログラム制の専攻医は4名（東京慈恵会医大2名、東海大1名、富山大1名）であり4月より研修を開始した。

一方、カリキュラム制の専攻医は17名（群馬大2名、千葉大2名、日大1名、東大1名、信州大1名、東海大4名、岐阜大1名、神戸大2名、兵庫医大1名分、愛媛大1名、九州大1名）であり、4月より研修を開始した。

2) 日本専門医機構の役員、各委員会委員長が交代となり、当会からの基本領域研修委員会、基本領域専門医委員会、基本領域連携委員会委員については、専門医担当理事の山田俊幸副理事長を推薦した。

10. 大学医学部における臨床検査医学講座の重要性について（矢富 裕 理事長）

「臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって-日本臨床検査医学会の考え方-」が、当会の現状と乖離してきたため、臨床検査医学の重要性を主題とした文書とし、ホームページに掲載していることが報告された。

11. 医師国家試験における臨床検査関連の表記に関して（要望書）_その後の状況（東條尚子 庶務理事）

2017年3月13日に、山田俊幸副理事長が本件要望書を厚生労働省に要望したことについて、その後、是正された事項、対応されていない事項などの状況報告がされた。

12. 2018年度に係る定時社員総会後の講演会（矢富 裕 理事長）

2019年3月23日（土）に開催する理事会、定時社員総会終了後に、2017年同様、講演会を行うこととなり、講演は、奈良信雄先生と前川真人先生で、奈良先生には「医学教育分野別評価から見た医学教育改革の動向（仮題）」（座長：東田修二先生）を、前川先生には「ゲノム医療の臨床検査について」（座長：山田俊幸先生）を講演いただくこととなった。なお、講演は、全会員対象とし、会場の都合上200名程度となる予定であり、あらためて案内することが報告された。

13. その他（東條尚子 庶務理事）

1) 評議員名簿のホームページ掲載について

評議員名簿の提案が支部長よりあり、ホームページに掲載することが報告された。

IV. 審議事項

1. 2018年中間報告・2019年度予算案について（古川泰司 会計理事）

2018年度中間実績は、1月1日～6月30日までの実金額での報告である。

中間実績が2017年度と2018年で大きく差があるのは、収入・支出の時期の違いによるという説明があった。

2019年度予算案では、一般会計ではJACLaSからの寄付金の減額、外販収入、広告収入などの収入減のほか、新専門医制度に係わる費用等により、費用が不足するため特別会計より500万円を一般会計に補填する予算立てをした。

特別会計では、一般会計への補填 500 万円、そして、MyPage 費用 500 万円を計上した。

アジア交流基金、学会賞基金については、例年同様の予算となっている。

なお、学会の財政状態が厳しい状況が続いているため、学術集会補助金、学会機関誌発行費用等の見直し、会費値上げなどの対応を協議しており、今後、対応策を提案できるよう検討していることが報告され、承認された。

(資料を開く)

2. 2018 年度事業中間報告について (東條尚子 庶務理事)

2018 年度事業中間報告があり、承認された。

(資料を開く)

3. 2019 年度事業計画 (案) について (東條尚子 庶務理事)

2019 年度事業計画 (案) が提示され、承認された。

(資料を開く)

4. 2019 年度からの名誉会員・功勞会員・社員 (評議員) の推薦について (矢富 裕 理事長)

・名誉会員として、理事会で推薦、承認された尾崎由基男先生が推薦され承認された。

・功勞会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記 14 名が推薦され、承認された。

東北支部から賀来満夫先生、関東・甲信越支部から池淵研二先生、大西明弘先生、庄司 優先生、竹村 譲先生、戸塚 実先生、中西邦昭先生、宮島栄治先生、渡邊 卓先生の 8 名、東海・北陸支部から柴田 宏先生、白石泰三先生、和田英夫先生の 3 名、九州支部から宇治義則先生、栢森裕三先生。

・評議員 (社員) として、各支部から推薦され理事会で承認された下記 10 名が提示され承認された。

東北支部から鈴木啓二朗先生、森兼啓太先生の 2 名、関東・甲信越支部から井上克枝先生、大川龍之介先生、蔵野 信先生、小池由佳子先生の 4 名、東海・北陸支部から井上貴子先生、中国・四国支部から上岡樹生先生、九州支部から宇野直輝先生、田崎雅義先生。

5. 評議員 (社員) 再任予定者 (2019/01/01) について (矢富 裕 理事長)

2019 年 1 月 1 日付評議員 (社員) の再任手続きは、12 月下旬の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員 (社員) の再任には社員総会の承認が必要であるため、2019 年 1 月 1 日付の評議員 (社員) 再任予定者 31 名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任された場合は退任となる場合もあることを前提としたうえで承認された。

6. My Page の製作について (東條尚子 庶務理事)

本年度より会員名簿の発行を止め My Page を導入し、そこでの掲載を予定していた。現在、当会としての My Page 仕様、必要事項などを精査、検討している。費用は 500 万円の予算を計上しているが、今後、見積りを取り常任理事会、理事会で継続審議していきたいと報告され、承認された。

7. その他

特になし。

V. 閉会 (山田俊幸 副理事長)

山田俊幸副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2018年12月5日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 矢 富 裕

議事録署名人 前 川 真 人

2018年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日 時：2018年11月16日（金）11：00～12：00

場 所：京王プラザホテル 南館 5F エミネンスホール

出席数：約160名

まず、矢富裕理事長より挨拶があった。

そして、第65回学術集会長の村田満会長が議長となり、名誉会員の臼井敏明先生（長崎大元教授 享年88歳：2018/6/25）の逝去を悼み黙祷がなされ、議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

その後、表彰式（臨床検査専門医認定証授与式、名誉会員・功労会員顕彰、学会賞・功労賞受賞式、国際学会奨励賞受賞式）が執り行われた。

山田俊幸副理事長より挨拶があり総会を閉会した。